

新たな特産品の商品化を目指して

市地域特産物商品化開発研究会は、第4回「開発商品発表会・試食会」を2月15日「道の駅しもつけ」研修室において行いました。

市内で生産された農産物を使い、市の新たな特産品の商品化を目指し一年間にわたり研究を重ねてきたケーキやまんじゅう、コロッケなどが発表されました。



試食会では、広瀬市長や高田会長など6人が審査員を務め、一品一品試食しました。



トマトと塩麴を使ったシフォンケーキや、ひじきを使ったコロッケ、白あんとうずのまんじゅうなど好評を得たものもありましたが、「もう少し見た目を工夫した方が良いのでは」などの意見も出されました。

同研究会の砂岡栄子会長は、「今後は、試食会の意見を参考に工夫を重ね、商品化を目指したい」と話していました。

家族経営協定を結んでみませんか!!

委員会では、農業に携わる家族全員が、経営方針や役割分担、就業環境や条件等について家族間で十分に話し合い、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指して、家族経営協定を結ぶことを推進しています。

今年度は、新たに3家族が協定を結び161組となりました。

2月25日には、締結者の親睦会「ゆとりの会」の主催によるヨガ教室が、国分寺地区の江田小百合さんを講師に迎え開かれました。参加した人は、日頃の農作業で疲れた体をほぐし、心も体もリフレッシュしたようでした。その後に行われた懇親会では、参加者同士が和やかな雰囲気のもと親睦を深めていました。



今後も「ゆとりの会」を通して締結者同士が、交流を深め意見交換や情報交換をしていただければと思います。

農業者懇談会開催される

下野市農業者懇談会が、2月14日南河内公民館大ホールにおいて農業委員、認定農業者など60名余りが参加して行われました。



懇談会では、最初に関東農政局の石原管理官から「人・農地プランについて」、次に栃木県県南環境森林事務所の戸田技師から「鳥獣被害の傾向と対策について」の講演がありました。

続いて行われた意見交換会では、「現在の人・農地プランでは新規就農者に対する給付金の要件が厳しすぎる。制度の柔軟な運用をお願いします。」「昨年は黒点米の被害が多かった。放射能汚染を心配して、しば焼が出来なかったことが原因の一つと考えられる。しば焼の再開を望む。」といった意見や要望が出されました。

今回出た意見・要望については、国・県に持ち帰り、施策に反映されるよう進めていくとのことでした。